2023 Spring

母校通信 151号

"Mastery for Service"

巻頭企画

関西学院のルーツを巡る

～上ケ原 編～

関西学院同窓会

関西学院のルーツを巡る

～上ケ原 編～

原田の森を取り上げた150号に引き続き、今号の母校通信は、移転先の上ケ原へと関西学院のルーツを追っていきます。関西学院は、大学昇格を目指して、1922年により広い上ケ原へと移転しました。上ケ原移転までの道のりやゆかりの人々、開かれたキャンパスデザインについて、田淵結元院長に伺いました。かつて風にそよいでいたポプラ並木についてなど、上ケ原キャンパスの今昔の物語を今田寛元学長に伺いました。

「西宮上ケ原キャンパス」は当時の呼称。「上ケ原キャンパス」と表記しています。

1935（昭和10）年の上ケ原キャンパス

定方塊石画伯による1927（昭和2）年当時の上ケ原風景

吉岡美國院長

神学館（1912年）

中学部校舎

田淵 結元院長

学校存続の危機に直面した原田の森時代

1889（明治22）年、アメリカの南メソヂスト監督教会の宣教師W・R・ランバスにより原田の森で創立された関西学院。当初は神学部と普通学部の2学部で、神学部の学生は7名、普通学部は12名、教員5名でのスタートでした。徴兵猶予の適用もなく、上級学校進学に必要な中学校卒業の資格も与えられていませんでした。認定学校としての在り方を模索し基盤づくりを行っている中で、1899（明治32）年に文部省訓令第12号が発令。宗教教育を放棄しなければ、徴兵猶予や中学校卒業資格などの特典を与えないという訓令第12号は、キリスト教主義学校の存続を脅かしました。この訓令ゆえにキリスト教主義教育の理念を放棄する学校もあり、関西学院でも議論があったそうです。しかし関西学院では吉岡美國第2代院長が「聖書と礼拝なくして学院なし。特典便宜何ものぞ。たとえ全生徒を失うもまたやむを得ざるなり」と勇ましく言い放ちました。そのおかげで当学院のキリスト教主義教育が堅持されました、と田淵結元院長。

しかし現実には、生徒数の減少などに直面し、学校存続の危機を迎えていました。状況が変化したきっかけは、1910年に同じルーツを有するカナダ・メソヂスト教会が運営に参画し、経営基盤が強固になっていったことです。ベーツ宣教師を代表とするカナダ・メソヂスト教会は、日本社会の経済発展への動きや神戸港に近いという関西学院の立地条件に着目。ビジネススクールを軸とする高等学校を目指して、1912（明治45）年に文科と商科からなる高等学部を設置しました。

関西学院が所蔵する資料によると、普通学部が中学校として認可を受け改称した際に尽力したのは、早稲田大学総長の大隈重信だったと言われています。普通学部を卒業後、早稲田大学に進学し、大隈に認められて政治家となった永井柳太郎の人脈によるものでした。1913（大正2）年、大隈重信が来校し、講演会が開催されました。また、高視聴率を記録したNHK連続テレビ小説『あさが来た』で生涯を描かれた女性起業家・広岡浅子も、関西学院を訪れたことがありました。高等商業学部の学生が親睦を深めるために創設した商科会による講演会に、1915年11月に広岡浅子が招かれ、「所感」というテーマで話をしました。商科会の活動はユニークで、実習機関として消費組合を設立し、学生が店員となって文房具などの販売を行ったと伝わっています。

商科会の会報『商光』の創刊号には、ベーツ高等学部長による講演論説「OUR COLLEGE MOTTO, "Mastery for Service"」が巻頭を飾りました。「他人の奴隷、境遇の奴隷、自分の情欲の奴隷、そうしたことを私たちは排する。しかし私達が主たらんと欲する真の意味は、自分の一個の富を求めるためではなくて、それによって世に仕えるためなのである。私達は広い意味における人類の僕たらんことを期しているのである」。ベーツのこの言葉は、関西学院全体のモットーとして今も受け継がれています。

C.J.L.ベーツ

NHK連続テレビ小説『あさが来た』と関西学院

大正時代に入り発展しはじめた関西学院には、首相の大隈重信や女性起業家・広岡浅子などの有名人も訪れました。

関西学院で講演を行った大隈重信を囲んで（1913年11月26日）

文部省に提出した普通学部から中学部への名称変更申請に対する回答が得られずにいた時、ベーツが大隈重信に文部大臣への取次ぎを依頼。大隈の紹介状を提出して数日後に名称変更が認められました。

高等学部商科に広岡浅子を迎えて（1915年11月5日）

商科会による講演会に出るため関西学院を訪問した女性起業家の広岡浅子は、1902年の大同生命保険株式会社の創業に参画。さらに、日本女子大学校発起人となり、学校創設に尽力しました。

大学令の発布で動揺した関西学院 新天地・上ケ原へ

大正時代には生徒数も校地面積も大幅に増え、原田の森キャンパスは順調に発展していきました。「一気に学生が来てキャンパスが狭くなり、宣教師も『礼拝をする場所がない』と言って外で礼拝をしていたほどだそうです」。しかし1918（大正7）年、文部省による大学令の発布に関西学院は大きく揺れます。当時の日本のモットーは富国強兵。人材を育て科学を発展させるために、これまで国立大学のみだった大学の設置が私学にも許されるようになり、1920（大正9）年2月には慶応義塾大学と早稲田大学が大学に昇格。一方関西学院は、1921（大正10）年に高等学部を文学部と高等商業学部に改組したところ。さらに大正年間には関西学院を除く関西の22校が大学に昇格しました。

そのような状況の中、「関西学院で高等学部を卒業して進学できる大学を」という声が学生や教員の中で日に日に強くなっていきました。ところが関西学院は第一次世界大戦後の経済不況のため北米の教会からの資金援助も期待できず、大学設置に必要な供託金60万円を準備することがかなわなかったため、大学昇格への道は難航。諦めムードが漂っていた時、上ケ原へのキャンパス移転案が浮上しました。高等商業学部の菊池七郎教授が、隣家の友人でアメリカ帰りの実業家・河鰭節（かわばたみさお）に学院の窮状を話したところ、現在の敷地を売却して郊外へ移転し、その差益で大学昇格の資金を捻出するという策を提案したのです。

建築前の上ケ原校地（上ケ原）1927（昭和2）年

整備されたばかりの美しい原田の森キャンパスを手放すことに学内では賛否両論あり、神戸市からも猛烈に引き止められました。しかし河鰭節が間に立ち、関西学院と阪神急行電鉄（現阪急電鉄）専務の小林一三の会見が実現。関西学院は原田の森の校地と校舎を売り、同社がすでに売買契約をしていた上ケ原の校地7万坪（約23万㎡）と大学設立の経費を入手しました。こうして1929（昭和4）年、大学創設を目指して上ケ原に移転し、1932（昭和7）年に文部省から悲願だった大学設立が認可されました。

移転問題を協議したメンバー　（左）から・河鰭・アウターブリッヂ・菊池・ウッズウォース

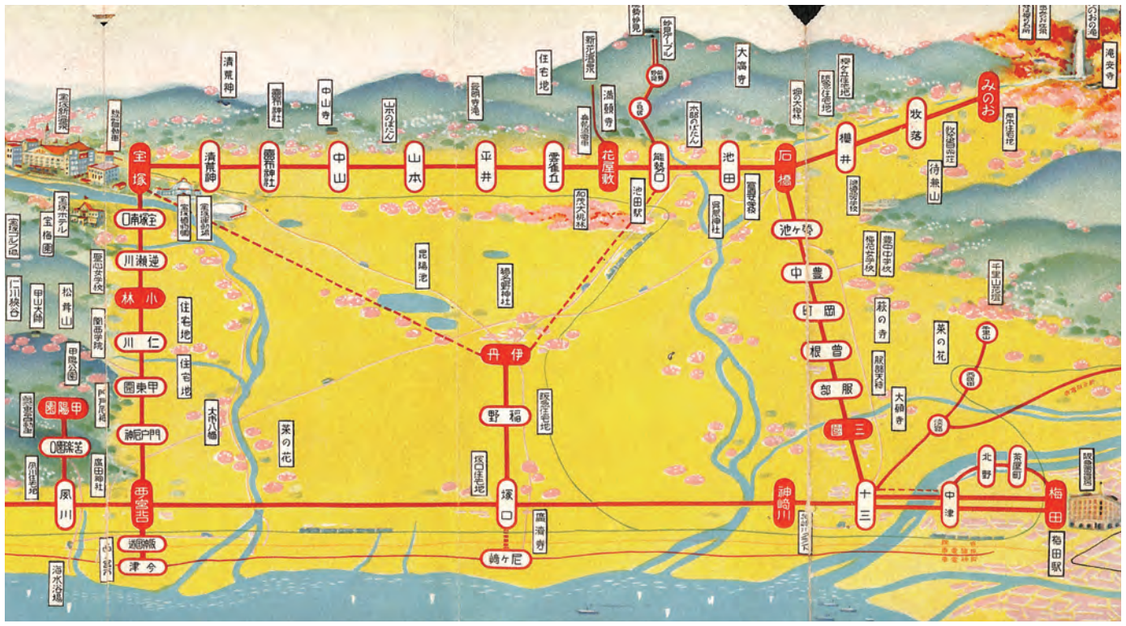
小林一三との深い縁 阪急電鉄の発展にも貢献した関西学院の移転

キャンパス移転前の上ケ原はのどかな農地で、甲東園という果樹園を持っていた地主・芝川又右衛門の土地でした。当時すでに今津線が引かれており、阪急側にも関西学院移転は沿線開発にとって益があったのではと田淵元院長は推測します。「西宮北口駅から宝塚駅まで、今津線には1駅ごとに学校があり、小林一三が意図的に誘致したのではと考えられます。当時乗客の主な目的地は沿線の社寺仏閣でした。そこには住宅地を開発し、通勤という新たな需要を生み出しました。朝に梅田や三宮へ向けてビジネスマンを乗せて運ぶわけですが、その逆方向の輸送に学生を乗せれば収益がアップします。学校があればその土地のブランド力も上がる。小林一三は多数の関西学院の学生が阪急電車を利用することを計算した上で原田の森を買い取り、上ケ原の校地を売却したのでしょう」

小林一三

原田の森キャンパスについて阪急電鉄は長く手を付けず、やがて神戸市に提供し三宮への乗り入れを実現しました。小林一三による長期戦略にもタイミングよく合致した関西学院は移転。1929年の創立40周年記念式典において、関西学院は小林一三の貢献を讃え感謝状と肖像画を贈りました。移転が縁となり、阪急電鉄との交流は現在も続いています。

西宮北口駅（1935年）



阪神急行電鉄沿線案内図（部分）1930年頃　出典元：関西学院大学博物館発行『関西学院の130年』

NHK連続テレビ小説『マッサン』と関西学院

2014年9月から放映された『マッサン』。主人公のモデルとなった竹鶴政孝と関西学院に甲東園の土地を提供した芝川家は深いご縁がありました。

西宮甲東園の果樹園を歩く　千島土地株式会社所蔵

ドラマの中で、不可能だと言われていた国産初のウイスキー製造のために大阪から本場スコットランドへと単身で渡ったのが、主人公マッサンこと亀山政春です。そのモデルが、ニッカウヰスキーの創業者・竹鶴政孝でした。竹鶴はイギリス留学から帰国後、大阪・帝塚山姫松に住みました。そのときの大家が芝川家3代目当主・芝川又四郎で、後に芝川が帝塚山姫松に居を構えた際、娘たちが竹鶴の妻リタから英会話を習ったとか。そういった縁で、後年、竹鶴が大日本果汁（現ニッカウヰスキー）を設立するにあたり芝川又四郎が資金提供しました。上甲東園には、芝川家の別邸や果樹園がありました。甲東園駅から関西学院までの道路は、芝川家が元々果樹園のために通した道路で、関西学院の敷地も果樹園の一部でした。関西学院がいくつかの候補地の中から甲東園を移転先に決めたのは、駅やこの道路があったことが大きかったとも言われています。2代目当主の芝川又右衛門と紳士淑女がのどかな果樹園を歩く写真が残されています。（千島土地 アーカイブ・ブログより）

時計台から中央芝生を望む

完成後の上ケ原キャンパス全景／1929（昭和4）年頃

中央芝生から甲山を望む

ヴォーリズが手掛けた軸線構造の美しいキャンパスデザイン

甲山を背景に、正門から中央芝生、時計台へと一直線につながる風景は、誰もが懐かしく感じる思い出の一枚でしょう。この上ケ原の新キャンパスをデザインしたのは、原田の森時代の校舎の設計をしたW・M・ヴォーリズです。関西学院の設立と同時に初代学長に就任したベーツとヴォーリズは、カナダ・トロントの学生宣教義勇軍大会に参加して外国宣教への献身を決意し後に関西学院で再会しました。

原田の森にはすでにウィグノールが設計したブランチ・チャペルがあり、それにならってレンガ造りの華麗なキャンパスをつくったヴォーリズ。一方、上ケ原は果樹園と数軒の農家以外は何もない土地。そのデザインに大きな影響を与えたのは、関東大震災だったと田淵元院長は語ります。「関東大震災を受けて、ヴォーリズは堅牢な建物を目指しました。コンクリート造に2階建ての低さがそれを物語っています。上ケ原の地盤の固さも相まって、非常に災害に強い校舎になりました。中央芝生の左右に主な校舎をシンメトリーに配し、建物自体もクリーム色の壁と朱色の屋根の明るいスパニッシュ・ミッション・スタイルで統一。以前、スペインが入植していたカリフォルニア州など太平洋側の地域の大学を訪れたことがありますが、我が校とそっくりの美しさでした」

上ケ原キャンパスは、関西学院教会の前からの直線道路と正門、時計台の先端を結ぶ直線を軸とした「軸線構造」が基本となっています。正門から歩いていくと目前に中央芝生が開け、時計台から甲山へと視線が動いていきます。「この風景を『聖書の言葉を形にしたのでは』とおっしゃる地理学の先生がいました。思い浮かぶのは旧約聖書の詩編第一二一篇『目を上げて、私は山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。私の助けは来る、天地を造られた主のもとから』です。聖書の言葉を自然に体験できるキャンパスは、キリスト教主義教育の大学ならではのもの。また、第二三篇の『主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる』も思い出されます。私たちはこのキャンパスで小羊として守られていることを伝えたかったのではないでしょうか」

校舎の配置に関する考察も目から鱗です。「時計台に向かって右手には宗教館や神学部、文学部など理念的研究分野の建物が、左手には商学部や中央講堂など実学的研究分野の建物が配置されました。これは総合大学として、理念と実学の両方を学んで人間が完成する学校であるという思想を表現していると思われます。大学としての生誕地であり、生命線ともいえる場所がこの上ケ原キャンパスなのです」。神戸女学院や聖和大学と並び、上ケ原丘陵に広がるミッションスクール建造群の一つである関西学院は、ヴォーリズ屈指の名作として今も存在感を放っています。

シンボル的建物の時計台は1929（昭和4）年の竣工当時、まだ時計が取り付けられておらず、「針のない時計台」と呼ばれたのは有名な話です。また、チャペルや講演会、大学院卒業式など数々のイベントで利用されてきた中央講堂は老朽化によって解体。2014年に中央講堂（125周年記念講堂）としてヴォーリズのデザインを踏襲して生まれ変わりました。

新しいキャンパスは、それにふさわしい新しい校歌も生みました。学生会によって1933（昭和8）年に同窓の山田耕筰作曲、詩人の北原白秋作詞の「空の翼」が誕生。上ケ原キャンパスの情景が豊かに込められています。その後、創立50周年を記念して由木康作詞、山田耕筰作曲の同窓コンビで「緑濃き甲山」が作られました。校舎の美しさと建学の精神が織り込まれた校歌は第二校歌とも呼ばれます。学生気分に戻って、これらの校歌を口ずさんでみてはいかがでしょうか。

W.M.ヴォーリズ

今田 寛元学長

変化する上ケ原キャンパス ポプラの面影をたどって

校歌「空の翼」にも歌われているように、ポプラは関西学院の象徴の一つです。「空の翼」を作詞した北原白秋は関西学院を訪れた際、グラウンドのポプラの幹に手をおいて構想を練りました。かつては数多くのポプラが学院内に堂々と並び、正門を入ったところやグラウンドを囲むポプラは壮観だったと伝わります。今田寛元学長はそんな関西学院のポプラに一目ぼれしたという一人です。「幼い頃から甲東園に住み、クリスマス礼拝や幼稚園で物心ついたときから関西学院のキャンパスにいました。空へまっすぐのびるポプラの姿は今でも目の奥に焼き付いています」。高く高く空へと枝を伸ばし、姿勢を正したような立ち姿のポプラに学生たちは親しみを持ち、経済学部の地下にはかつてポプラという店名の喫茶店があり、関西学院会館には今もレストラン・ポプラがあります。「私が中学3年生だった昭和25年、大型のジェーン台風がやってきました。ポプラ並木が気になって見に行ったら、正門付近のポプラのほとんどが根こそぎ倒れていました。その時、見物人の誰かが『ポプラは根が浅いからな』と言ったことに少年だった私はショックを受けました。根が浅いポプラは台風のような逆境に弱いというのです。風にそよぐポプラの姿や葉音の爽快さが好きで、どこか関西学院と自分のイメージとポプラを重ねて見ていたので、自己否定されたような気持ちを覚えました。このような経験と、関学の卒業生はスマートだがしたたかさに欠けるという世評もあり、後年私が学長になった際は『力強い関学』を強調しました」

正門を入ったところの左右にあったポプラ並木／1949（昭和24）年頃

移転初期の写真にはポプラは写っておらず、どのような経緯で植樹されていったかは不明です。しかし、学院用地の集約に尽力した芝川又四郎のアメリカのように柵を設けないで外に開かれた大学であってほしいという要望を受けて、ベーツ院長が実現した新キャンパスは開放的で関西学院らしいものでした。そこに芝川又四郎の父・又右衛門が77本のクスノキと150本の桜を寄贈し、ポプラとも相まって緑の学園づくりが始まったと考えられます。今田元学長によるとポプラは第二次世界大戦中からだんだんと減り、グラウンドの整備や校舎の増設によって姿を消していきました。現在関西学院内で目立っているのはクスノキ。芝川又右衛門が寄贈したクスノキが核となり、キャンパスを彩っています。クスノキは兵庫県の県木であり、西宮市の木でもあります。

今田元学長はあるとき、ポプラとクスノキが何本あるのか気になって、毎朝キャンパスを散歩してマップに記入していきました。「ポプラの影が薄くなっていることに気付いて数えはじめ、結果は1979年12月当時でクスノキが250本、ポプラが83本でした。予想外の大差に驚きました」。それからさらに40年以上が経ち、今ではポプラは片手で数えられる程度。かつてのグラウンドの土手のポプラも立派に残っているのは1本です。

ポプラの代わりに現在のキャンパスを見守る緑はクスノキのほかにもたくさんあります。キャンパス移転に伴い原田の森から運ばれたソテツ、ユーカリの巨木、中央芝生のシュロの木。そして同じく中央芝生にあって時計台の前を飾るヤシの木です。美しい上ケ原キャンパスは、キリスト教主義に基づく人間性形成のための重要な要素だと今田元学長は語ります。「美しい静かな環境では、ふだん聞こえないものが聞こえ、見えないものが見え、人間の感受性が相対的に高まります。そのような中で言葉や人を通して人間形成に大切な精神がさりげなく浸透し、それを基盤に展開される豊かな学生生活や交わりが、他校とは一味ちがう、母なる学校・関西学院への想いとなり、その温かい気持ちをもって世界に羽ばたき、母校を支えてほしいと願っています」

中学部に往事の姿を残すポプラ

関学人の魂に刻まれる校歌「空の翼」

大学昇格がもたらした変化の一つに、新しい校歌の作成がありました。それまでも1890（明治33）年につくられた校歌「Old Kwansei」がありましたが、アメリカのプリンストン大学のカレッジソングを基としたものでした。そのため学生たちの間で新校地にふさわしい自前の校歌を求める気運が高まりました。当時の学生会長・菅沼安人は吉岡美國名誉院長から推薦状をもらい、大阪に滞在していた同窓の山田耕筰を訪ね、校歌の作曲をお願いしました。そして山田氏は友人の北原白秋に作詞を依頼。こうした経緯でできあがったのが「空の翼」です。美しい上ケ原キャンパスに似合わしい新校歌が誕生し、1933（昭和8）年9月18日には中央講堂で新校歌発表会が行われました。「往時はグラウンドが上下二段に別れており、その境目の土手の上にポプラが並んでいました。『空の翼』を歌うと当時の情景が目に浮かびます」

今田元学長によると、校歌を覚えるのにコツがあるといいます。「まず中央芝生の真ん中に立って、一番は空を見上げて『風に思う空の翼』と歌い、二番は甲山に向かって『眉にかざす 聖き甲』と歌い、三番は180度向きを変えて『旗は勇む 武庫の平野』と歌えば、歌詞と身体の動きが結びついて簡単に覚えられます。私の専門の心理学の立場からも理にかなった記憶法なので、空の翼を思い出すために試してみてください」

母校通信11号:1953年当時のポプラ並木の全容をもっともよく残している写真の一枚である。
手前の校舎は現在の高中部本部棟。

昭和前中期の関西学院がよくわかる
今田先生の著書
『上ケ原キャンパスあれこれ』
出版元:関西学院大学出版会

2号続けて関学ルーツ探しの旅を続けてきました。いろいろな先達の努力によって、上ケ原のキャンパスがあるのだとの思いを新たにしました。こうした歴史の上に、これからの関学の進むべき道があるように思います。設計当初から理想とされた垣根のない学院が、いつの時代にも真の国際人を育てていけるように願ってやみません。

編集長 塚本 恵美子

関西学院大学博物館にて
ジオラマを見ながら話す田淵元院長と塚本編集長

後期リーグ戦第10節　対びわスポ大　2-2

前期リーグ戦第2節　対大産大　1-1

全日本インカレ2回戦　対静産大 2-1

前期リーグ戦第6節　対関大　6-3

関西選手権準々決勝　対大院大 0-2

PROFILE　山本 祐也（やまもと・ゆうや）

2000年10月4日、奈良県生まれ。大阪府・近大附属高出身。趣味はYouTubeを見ること。社会学部4年。184㌢、75㌔。

1年間の歩み “全国制覇”へ

ＤＦ山本祐也主将（社４）率いるサッカー部男子が、全日本インカレで３位。目標としていた「日本一」には届かなかったが、最後まで関学らしさを貫いた。トーナメントの苦手意識だけが不安要素だったものの、勝ちを重ねて見せた大躍進。関学スポーツでは、サッカー部の１年に迫る振り返り企画を敢行。主将が抱えていた思いに注目だ。

土壇場で許した決勝点

「日本一」への希望は、試合終了間際に崩れ落ちた。関学は、全日本インカレ準決勝で桐蔭大と対戦。勝敗が決したのは、同点で迎えた延長戦の後半アディショナルタイムだった。左サイドからの折り返しを中央で冷静に合わせられ、失点。1−2で惜しくも敗れ、決勝戦への切符を土壇場で逃した。「悔しいが、自分たちができることは試合を通してやれたと思っている」と山本祐也。試合内容で上回る局面も見られたため、悔いが残る結果となった。

準決勝までの道のりは、まさに順風満帆そのもの。2回戦から登場した関学は、初戦で静産大と対戦した。東海王者相手に2−1と着実に勝利を飾り、準々決勝へ。相手は強豪・法大を下し、波に乗っていた常葉大。だが、相手の猛攻にも怯まなかった。前半に奪ったFW山田（商4＝J2東京V内定）の1点を守り切り、準決勝へと駒を進めた関学。「日本一が少し見えていたが、終わってみるとまだ遠いと感じる」。紙一重の差が、決勝進出の命運を分けた。

《関西学生リーグ順位表》

順位	チーム名	勝点	勝	負	分	得失
1	関学	48	14	2	6	35
2	びわスポ大	42	12	4	6	2
3	阪南大	41	13	7	2	2
4	関大	38	11	6	5	23
5	大体大	37	11	7	4	11
6	京産大	31	9	9	4	8
7	関福大	29	8	9	5	-5
8	大院大	26	7	10	5	-9

2大会で学んだ勝ち方

トーナメント戦の苦手意識を克服する絶好の機会だった。苦い記憶を覚えたのは、夏の全国大会である、総理大臣杯の予選を兼ねた関西選手権。関学は準々決勝で大院大と対戦するも、0−2で敗れ本戦出場を逃していた。「改めてトーナメントの難しさを知った1戦だったと思う」。昨年度の全日本インカレでも、無念の初戦敗退という結果に終わっていた関学。しかし、今年度は全国3位に輝き、トーナメントでも勝てることを他大学に証明してみせた。

一方の関西リーグでは、圧倒的な強さを見せつけ、2連覇を達成した。開幕2戦こそ、1分1敗と勝ち切れなかったが、以降の前期終了までは負けなしで首位。後期の終盤では早くも独走態勢に入り、1試合を残し優勝を決めた。「一喜一憂せず、毎週の練習を継続することに努めていた」。前回王者という、大きなプレッシャーにさらされながらプレーしてきたイレブンたち。だが、リーグ戦ならではの戦い方で、次第に勝利のメソッドをつかんでいった。

「日本一」に向けたバトンは、次の世代に託された。来季の関学には、期待せざるを得ない理由がある。それはMF倍井（経3＝J1名古屋内定）、MF美藤（社3＝J1G大阪内定）といったタレントがラストイヤーを迎えるからだ。今季もチームの中心を担った2人には、多くの注目が集まる。「プロの舞台や選抜チームで得たことの多くを、チームに還元していってほしい」。8年ぶりとなる日本の頂を目指す関学の挑戦が、幕を開けようとしている。

近いようで遠かった日本一

あと一歩が・・・延長戦の末に桐蔭大に敗れる

第71回全日本大学サッカー選手権大会　準決勝

関学 1 ｜ 0−1 / 1−0 / 0 EX 1 ｜ 2 桐蔭大

① 試合後、写真撮影に応じる選手たち　② 得点を決め喜ぶ木村　③ 根木がドリブルで切り込む

第71回全日本大学サッカー選手権大会　準決勝

関学 1 ｜ 0−1 / 1−0 / 0 EX 1 ｜ 2 桐蔭大

	得点者	
90分　木村勇大		45＋1分　山内日向汰 120＋1分　白輪地敬大

第71回全日本大学サッカー選手権大会　3回戦

関学 1 ｜ 0−0 / 1−0 ｜ 0 常葉大

	得点者	
9分　山田剛綺		

第71回全日本大学サッカー選手権大会　2回戦

関学 2 ｜ 1−0 / 1−1 ｜ 1 静産大

	得点者	
33分　山田剛綺 87分　木村勇大		84分　馬場俊輔

関学スポーツ特別企画

KG ATHLETICS

関学体育会発足から110周年を迎えた2022年度。節目の年に輝かしい功績を残した10部の戦績をご紹介します。

ハンドボール部女子

11月3日～5日、令和4年度全日本学生ハンドボール選手権大会にてベスト8に輝いた。

合気道部

10月23日、第53回全日本学生合気道競技大会にて女子乱取団体で準優勝を果たした。

ボート部

11月6日、第33回加古川レガッタ兼関西学生秋季選手権にて新人ダブルスカルがアベック優勝。関西制覇となった。

アメリカンフットボール部

12月18日、三菱電機杯第77回毎日甲子園ボウルにて早大と対戦し見事優勝を果たした。

ラクロス部女子

11月5日、関西学生リーグファイナル3決勝にて同大に勝利。4年ぶりの関西王者に輝いた。

弓道部男子

10月16日、令和4年度関西学生リーグ優勝決定戦にて京橋大に勝利。関西制覇を果たし、11年ぶりの王座進出となった。

陸上競技部

11月19日、第84回関西学生対校駅伝競走大会にて優勝。5年ぶりの関西制覇となった。

準硬式野球部

9月21日～10月21日、2022年度関西六大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦にて優勝。

ヨット部

11月2日～11月6日、第87回全日本学生ヨット選手権大会にて総合4位となった。

スケート部スピード部門

10月22、23日、第95回日本学生氷上選手権大会にて創部初の女子総合優勝を果たした。

◆ 関学スポーツとは ◆

私たち体育会学生本部編集部は体育会の広報機関です。体育会42部49パートの試合に出向き、取材を敢行。紙面やSNSアカウント、公式サイト等にて幅広く広報を行っています。関学スポーツは1961（昭和36）年4月に創刊され、発行号数は2023年3月で270号を数えます（途中休刊あり）。

◆ 関学スポーツのすべて ◆

〈定期購読〉

体育会の活躍を取り上げる紙面をご自宅に年5回、3,000円でお送りするサービスです。お申し込みは、お名前、ご住所、連絡先、出身部、定期購読支払い方法（①集金代行サービスにて引き落としまたは②現金振込）を明記の上、関学スポーツ定期購読専用アドレス（kg_teikikoudoku@yahoo.co.jp）までご連絡下さい。

〈SNSアカウント〉

リアルタイムで試合速報、選手の号外ビラなど、様々な情報を発信中です。ぜひフォロー&チェックのほどよろしくお願いいたします！

▲Instagram ▲Facebook ▲Twitter

ラストイヤーで飛躍した4年生

カヌー部

ほそみ まや
細見 茉弥

2001年3月7日、兵庫県生まれ。兵庫県・県立柏原高出身。趣味はドライブ。総合政策学部4年。159㌢。

エースが激動の1年を終えた。カヌー部女子の細見茉弥（総4）は、関西インカレ｛WK―1｝200㍍でトップに躍り出る大活躍。女子の総合優勝にも大きく貢献した。日本代表にも選出され、昨年の夏には世界大会を経験。高校時代は陸上部に所属していた彼女だが、4年間で学生カヌー界きっての強豪選手に成長した。卒業後も競技を続ける決断を下した細見に、今後も注目だ。

準硬式野球部

瀬川凜和主将（法4）は、2021年度秋季リーグにてベストナイン、打撃十傑に選出された。個人としては輝かしい成績を収めたが、優勝にはあと一歩及ばず。2022年度春季リーグでは、雰囲気づくりに励みチームを関西制覇へと導いた。勢いそのままに6年ぶりの全日本選手権出場を果たした関学。「全員で挑む」と選手たちの結束は固かった。瀬川の築いた土台は今季も継承されるだろう。

せがわ りんや
瀬川 凜和

2001年1月17日、京都府生まれ。京都先端科学大付属高出身。趣味は読書と筋トレ。法学部4年。170㌢、64㌔。

レスリング部

もりた しょうへい
森田 祥平

2001年3月16日、兵庫県生まれ。兵庫県・市立伊丹高出身。趣味はキャンプ。法学部4年。170㌢、93㌔。

多彩な才能を発揮した。森田祥平主将（法4）は西日本インカレにて、強敵相手に大奮闘。決勝はけがで棄権となるも、見事準優勝に輝いた。活躍はレスリングだけにとどまらない。助っ人として相撲部の団体戦に出場。全日本インカレ団体Cクラス準優勝に貢献した。驚異の二刀流で快進撃を見せた森田。飛躍の1年を終え、競技人生に幕を下ろした。

水上競技部競泳パート

平井佑典（経4）は関西インカレにて、関学記録を塗り替え優勝。ジャパンオープンでは、関西学生記録を更新し、全国3位に上り詰めた。周囲が競技人生に幕を下ろす中、平井は現役続行を決断。次なる目標は、ロサンゼルス五輪に出場することだ。その第一歩として、世界水泳代表内定を見据えている。「必ず結果を残したい」。経験を糧に世界の舞台へと羽ばたいていく。

ひらい ゆうすけ
平井 佑典

2001年3月29日、兵庫県生まれ。兵庫県・関西学院高等部出身。趣味は登山。経済学部4年。181㌢、82㌔。